

首都機能移転県民フォーラム(女性フォーラム)の開催結果の概要について

1. 日時・場所

- ・平成9年9月9日(火) 13時30分～16時20分
- ・宇都宮市「パルティ」とちぎ女性センター

2. 参加者

- ・コーディネーター(宇都宮大学名誉教授馬場信雄氏)
- ・意見発表者

女性経営者研究会会長	浅沼 公子 氏
J Aとちぎ女性組織なの花会会長	猪野 正子 氏
栃木県地域婦人連絡協議会会長	大橋 松 氏
塩原産業開発協議会会長	岡部 瑞穂 氏
宇都宮商工会議所青年部宮のまち創造委員会委員長	河上 典子 氏
陶芸家	島田 恭子 氏
いっくら国際文化交流会会長	長門 芳子 氏
那須野ヶ原土地改良区連合会事務局長	星野 恵美子氏
栃木県市町村消費者団体連絡協議会会長	葭葉 リウ 氏
栃木県議会首都機能移転対策特別委員会委員長	吉谷 宗夫 氏
栃木県議会首都機能移転対策特別委員会副委員長	阿久津 憲二氏

- ・傍聴者250名

3. 意見の概要

- 意義などに関する意見 -

- 女性や子供が幸せで明るい目と顔をしている国は、まず国が豊かさと平和に満ちている国ではないか。その実現の延長線上に首都機能移転があると思う。
- この地域で暮らす子や孫たちが豊かな教養ある人間に成長できることを約束する責任がある。そのためにも、本県に首都機能の移転を実現すべきである。
- 首都機能移転が何十年もかけて緩やかに整備されていくことは、人心の安定が徐々にはかられ、国土の不均衡も是正されると考える。また、環境保全や情報通信、リサイクルシステムなど、あらゆる分野で技術革新がもたらされると考える。
- 想定人口が移転してくることによって、付随する施設や設備、環境などが整備され、栃木の人口不足も解消され、新しい栃木が生まれると期待している。
- 首都圏農業から首都農業に変化することにより、販売ルートの日短縮等の効果が出て、農業の発展につながると考えている。
- 地元の農業、観光業、畜産業など、さまざまな産業の活性化をうながすためには首都機能移転を那須地域に持ってくる必要があると考える。
- 首都機能移転に伴い、30万から60万人の人たちが来た場合、宇都宮市は母都市として、文化や教育も含めてバックアップシステムを考えなくてはいけないと考える。
- 那須地域は、北関東横断道路が開通することにより、国際貿易港である新潟港と那珂港との中間に立地し、北東国土軸上にも位置している。また、福島空港や成田空港といった既存の施設も使用できるなど、良い条件に立地していると考えられる。

- 首都機能移転により国際交流が活発になると思うが、現段階でも国際交流を活発化することが栃木県民自体のこの問題に対する意識の高揚になると考える。
- 首都機能が移転してくると那須野ヶ原は、水が足りなくなると言われるが、那須野ヶ原の水の有効活用や福島県から水を引いてくるなど、国家が当然行うべきことであると考えます。
- 首都機能移転がなぜ必要なのかという国家的ビジョンを国民に明確に広げていかなければいけないと考える。

-課題に関する意見-

- 首都機能が岐阜や愛知等西のほうに行ってしまうと、二百万人を突破した本県の人口も減少してしまうだろうし、産業も衰退してしまうと思う。また、文化面でも遅れる心配がある。
- 那須地域の山間地と平地の人々が手を結んで首都機能移転実現に向けて運動を展開することが大切である。
- 首都機能移転等の工事も含め、日本はこの辺で毅然と木は一本も切らない、山は壊さないなど法律で決めなければいけないと思う。

-要望に関する意見-

- 自然は、手を加えなくても崩壊してしまう。人間の手を加えて開発する部分と守る部分とをハッキリさせてほしい。また、それを進める上で、地域の皆さんの意見を尊重して進めてもらいたい。
- どこまで耕すか（開発するか）、つまり、開発すべきところと残すべきところをどうするか論議してもらいたい。
- 首都機能を受け入れる時に、現在の市街地、つまり、町のなかに誘致できるようなシステムを国会に提案できないかと考える。
- 国会が生活圏の中に入り込んできて、いつでも国家の先生方の話が市民に見えるようにしてもらいたい。市民が見える国会や行政であるようにする必要がある。
- あなたの意見が新首都の資源ですとあるように、一人一人が皆意見をだしあって賛成できるような首都機能移転のビジョンを作ることが大切である。
- 自然とバランスのとれた国土構造の実現、新しいライフスタイルとのパンフレットのことばがお念仏にならないような本当に実現可能なビジョンと内容があれば良いと考える。
- 自然を生かして、栃木県ならではの発想を展開してもらいたい。
- ゴミ公害、水問題、下水道問題など環境整備を良くしていただきたい。また、多くの人たちが移り住んでくるので食の安全性も考えてもらいたい。
- 県民だれもが情報を得られるようにしてもらいたい。また、誰もが理解できるような首都機能移転の青写真を作ってもらいたい。

-意見交換における主な意見（要旨）-

- 十二から十三の地区が誘致運動を展開しているが、最終的にはお互いの地区の弱点探しになると思う。栃木県は脳卒中の死亡率がワースト1、2位と言うのは不名誉なことと思う。今後、官民一体となり死亡率の改善に努力しなければならない。
- これからフォーラムを続けていくなかで会場の人たちとパネリストがそれぞれ意見交換をできるような状態で行ってもらいたい。
- 県民共通の夢を持って街づくりに参画していく視点を大切に、県民の合意を取っていけると本当に皆が待ち望んでいる首都機能移転が実現すると思う。
- 情報センターについて、平日しか開設しておらず、また、入りにくい感じがする。よほど関心がない

と訪れないのではないかと思う。情報提供の手段として、大勢の人が集まる場所、例えば、駅前のショッピングセンターなどにブースを設置するなど、工夫が必要だと思う。

- 人間の本当の生命の糧である食糧問題がいちばん大切であるにもかかわらず、それさえも解決できていない現状である。この事を見ても、首都機能移転を実現して新しい機構でいろいろな問題に取り組んでもらいたい。